

# 避難所の衛生改善に力

熊本地震  
医療支援

## AMDAが活動報告

7月の熊本地震で被災した熊本県八代市で医療支援に当たった国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）の活動報告会が24日、同市内であった。医師ら3人が避難所の衛生環境改善などに取り組みんだことを紹介した。

衛生なトイレを使わなかったためのルール作りを控えていたことが原因といい「トイレ掃除とともに、清潔に保つためのルール作りを進めた」と振り返った。

避難所生活の長期化で体の不調を訴える被災者

被災者は少なくなく、鍼灸師の林篤志（しんきゅう）さんは「日に日に利用が増えた。施術中に会話を交わすことが心のケアにもつながった」と強調した。

難波妙副理事長は「フェーズによって必要な支援は変化していく。できる限りの支援を続けたい」と語った。

市民ら約20人が聴いた。（太田孝一）

AMDAは7月31日

8月23日、現地の避難所に医師や看護師ら計23人を派遣した。被災直後に避難者を診察した頼藤貴志医師（岡山大教授）は、脱水症やぼうつこう炎の発症が懸念される人が多かったと説明。不

7月の熊本地震で被災した熊本県八代市で医療支援に当たった国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）の活動報告会が24日、同市内であった。医師ら3人が避難所の衛生環境改善などに取り組みんだことを紹介した。

特定非営利活動法人アマダ（AMDA）  
8年熊本地震被災者緊急支援活動報告会



避難所での支援活動などを説明する（左から）  
難波副理事長、頼藤医師、林さん